

GREEN×EXPO 2027会場

Carbon Neutral & Nature Positive Nature-based Design

会場は横浜市の旭区・瀬谷区に位置する旧上瀬谷通信施設であり、2015年に米軍から返還された約242haの広大な土地で、そのうち約100haが博覧会区域となります。土地利用が制限されてきたことから、農地や緩やかな起伏の草地などの自然環境が広がり、南北に流れる相沢川、和泉川の源流部、谷戸地形等の貴重な自然資本が残っています。

GREEN×EXPO 2027では、この計画地の環境を読み解き、かつて武蔵国と相模国の国境となった尾根地形や、南北方向の水の流れ、風の動き、残された樹林等の自然資本を活かした会場づくり (Nature-based Design) を進めます。この上で5つのビレッジと3つのゾーンを展開され、日本の植物資源と文化を活かした園芸博覧会が繰り広げられます。

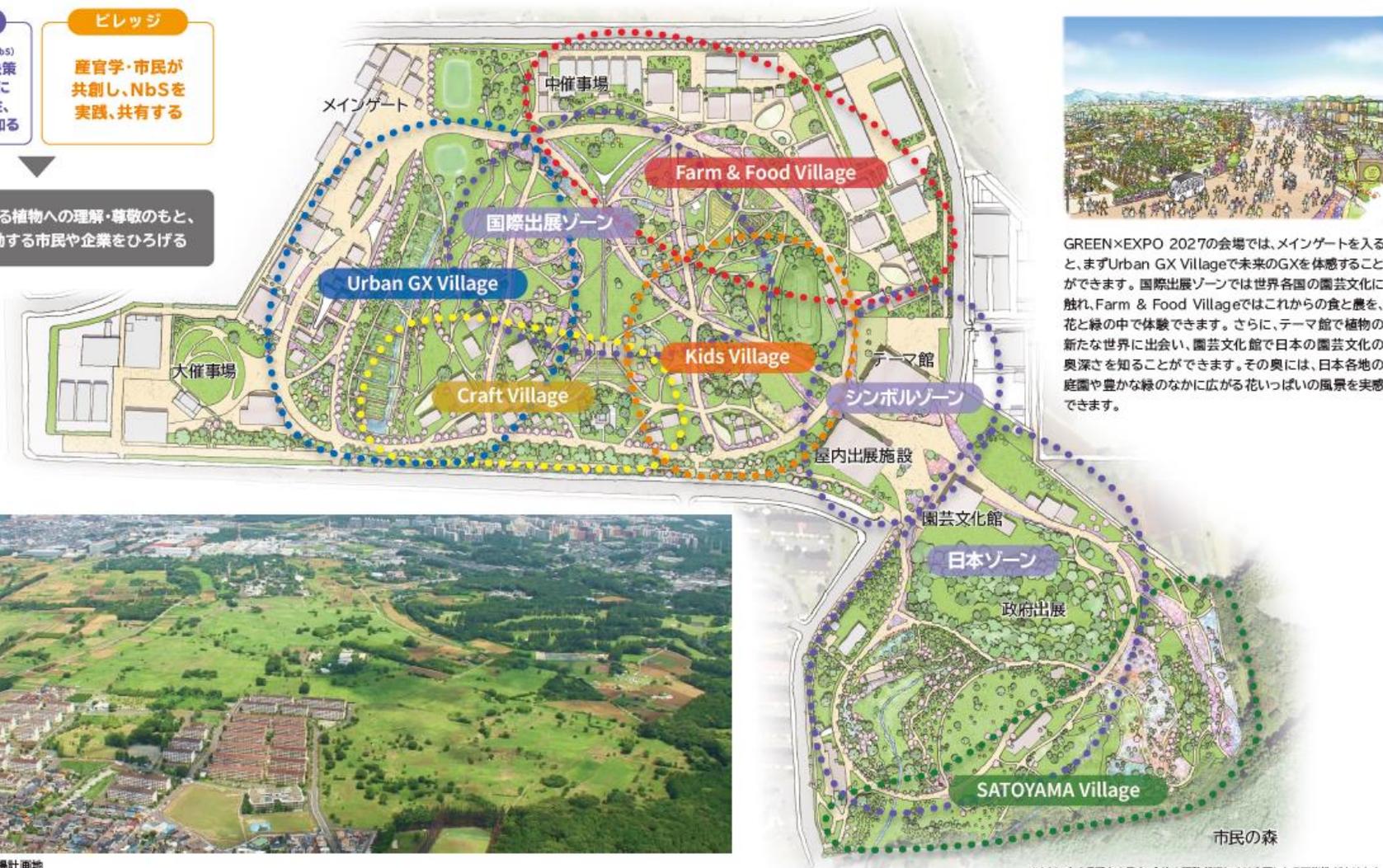
ゾーン

Nature-based Solutions(NbS)
自然を活用した解決策の基盤をなす植物について、その重要性、不思議さ、美しさを知る

ビレッジ

産官学・市民が共創し、NbSを
実践、共有する

NbSの基盤となる植物への理解・尊敬のもと、NbSを意識、行動する市民や企業をひろげる



GREEN×EXPO 2027の会場では、メインゲートを入ると、まずUrban GX Villageで未来のGXを体感することができます。国際出展ゾーンでは世界各国の園芸文化に触れ、Farm & Food Villageではこれからの食と農を、花と緑の中で体験できます。さらに、テーマ館で植物の新たな世界に出会い、園芸文化館で日本の園芸文化の奥深さを知ることができます。その奥には、日本各地の庭園や豊かな緑のなかに広がる花いっぱいの風景を実感できます。



GREEN×EXPO 2027会場計画地